

第 5 回すばる小委員会議事録

日時：2月27日（火）午前11時より午後5時(JST)

場所：国立天文台天文台解析棟2F TV会議室

（ハワイ観測所とTV会議接続）

出席者：有本信雄、市川隆、伊藤洋一、小林尚人、高田唯史、浜名崇、

山下卓也(以上三鷹)、高遠徳尚(ハワイ)、

臼田知史、山田亨、林正彦(ハワイ、午後から参加)

欠席者：岩室史英、片坐宏一、定金晃三、土居守

書記：吉田千枝

1 UMの反省

今年のUMはいろいろな意見が出て盛り上がった。現実的な議論ができたと思う。

外国との協力は積極的に進めるという方向だった。

委員長：まず戦略枠の実現を急ぐ必要がある。プリンストンについては台長に意見を具申したい。

装置提案については、予算の取れるところまでSACでケアする。

時間交換については観測所主導の報告だったが、ユーザーからは積極的なサポートも反対もなかったようだ。

1年後には装置のデコミッションについて提言することになる。

C：装置数を減らすとその分野の技術開発が途絶えるのではないかという心配が出ていた。

C：UMでは開発者の意見が多かったようだ。

C：光赤外は国際協力の経験が少なく、考え方が古いのかもしれない。

C：外国が乗ってくるほどのプロジェクトを日本が立てていないとも言える。

C：意識改革が必要だ。ALMAは国際協力で進めているし、日本人だから国際協力ができないということはないはずだ。

C：装置予算が一国ではカバーできない金額になってきている。

委員長：サイエンスプロジェクトで太刀打ちできるなら積極的に国際協力を推進することになるだろう。

- C : UM でも、経験を積むためにもとにかくやるしかない、というユーザーの意見だった。
- C : プリンストンとの協力については、我々がアイデアを出して、それにプリンストンに乗ってもらるのがベストだろう。
- C : こちらが主体であるべきだ。サイエンスとしてそれができるか？と不安だったが、できる気がしてきた。

委員長 : WFMOS についてユーザーの反応が不明だったが、サイレント・マジョリティの意見は何だったのか？
太田さんの FMOS 提案は、この装置を使って何をやるか、というタイプの戦略枠提案だった。(観測所からではなく) 外からの戦略枠提案としてとらえることができる。
戦略枠について、すばるで落ちこぼれないようにみんなでやろうとユーザーに提案したが、それは危険だ、という意見があった。

- C : 以前の観測所プロジェクトで、主体的にやる人とは別に、取れたデータを使って何かやった人はいるのか？
- C : 観測所プロジェクトでは nature 論文は出ていないが、いい論文は 3-4 本出ている。
- C : 先を見ている人が多くて、(最初の提案を)最後まで全部やるという風にはいかなかった。
- C : SDF は成功したと思う。
- C : SDPS は常にデータ待ちの状態のようだった。
- C : SXDS はイギリス人がいい論文をたくさん書いている。
- C : 戦略枠は観測所プロジェクトのようにならないように、というユーザーの意見だったと思う。
- C : PI の資質が大きく影響するようだ。
- C : (それもあるが)若手がどんどん働くとプロジェクトが成功する。
- C : 今すばるに若手が育っているだろうか？

2 戦略枠について

- C : 戦略枠の観測所主導が必要な理由は、観測をまともに遂行できるかどうかは SS にかかっており、新装置の SS の育成が重要だからだろう。
- C : いつから戦略枠を始めるかを決めれば、逆算でタイムスケールが出る。
- C : FMOS のファーストライトにはまだ不定性が大きい。
- C : ファーストライトが終わってすぐ戦略枠というわけにも行かないし、

ファーストライトが半年ぐらいずれ込むこともありうる。

2009年頃が戦略枠の始まりということになるか？

委員長：UMでは、戦略枠についてSACで判断してすぐ動き出すということユーザーに承認してもらったと思うが、WG提案についてのユーザーの意見を振り返ってみよう。

C：観測所からお題を与えられることに抵抗がある人が多かったようだ。

C：(正確には)観測所がまず提案して、それに対する対案を募集する形だった。

C：観測所+SACが最初から提案するのではなく、ユーザー提案をヒヤリングして選んではどうか？

C：お題の与え方、区切り方にもよる。装置だけで区切る方法もある。

C：大枠が決まれば、とにかく案を提示して、ユーザーの意見・批判をもらえばよい。

委員長：枠を決めるときにヒヤリングを入れるかどうか？

C：ユーザーの意見を上げるパスがない、という意見・反発があったので、まず公募が必要だ。

C：だが戦略枠導入には強いリーダーシップが必要だと思う。

C：UMの懇親会では、手続きが煩雑すぎる、準備しているうちに装置の匂が過ぎてしまう、という意見が多かった。

C：夜数を取り除いたプロポーザルを受け付けてはどうか？

ユーザーからも観測所からもプロポーザルが出てくるだろう。
どうしてそれではだめなのか？

C：観測所が主体にならなくても、サイエンスの成果は出せる。

C：観測所がどういう性格なのかはつきりしないので難しい。

C：観測所は黒子だろう。

C：サイエンスを主導するという考え方もある。

C：世界の観測所の主流は黒子だ。ハワイ観測所ではサイエンティストが技術面も引き受けて頑張っているが、それを評価するシステムが整っていない。
日本の観測所の問題点であり、反面いい点でもあるのだが。

C：人員配置が全然足りない状況だ。日本では技術者というと、半分サイエンスができる人を考えるが、現実はそうではない。SSをもっと厚遇すべきだ。

C：FMOSが立ち上がるのを待っていないで、他の装置で戦略枠をやってもいい。

=午後=

委員長：戦略枠を実施にこぎつけることが今期の SAC の一番の仕事になるだろう。

WG 委員：UM では、戦略枠の導入についてはユーザーの同意が得られたが、実施手続きが複雑すぎるという批判があった。観測所主導型と公募型の折衷案を提示したわけだが、そのためにかえってわかりにくかったようだ。戦略枠を一般化して論じようとするとは複雑になるので、個別に議論を進めたい。戦略枠は 5 年間で 100 夜規模の大型観測を行い、すばるとしての成果を出そうとするものなので、そう何件も実施することはできない。装置としては HiCIAO, FMOS, HSC の 3 つくらいだろう。FMOS はまだファーストライトのタイムスケールがはっきりしないので、まず HiCIAO を使った戦略枠を策定したい。

C：戦略枠は誰が応募してもいい形にすべきだというのが午前中の議論だった。UM ではユーザーがもっと自由に応募したいと考えている様子だったので、最初に提案を受け付けてしまっただろうか？

Q：戦略枠はいつまで続けることになるのか？

C：その時々で、やる価値があると思ったものをやるので、飛び飛びの実施になるだろう。

C：今後 10 年でせいぜい 4 件くらいしか実施できないだろう。

C：新 AO 関連装置がないのはおかしい。

C：今は戦略枠の具体案を考えるのが先決だ。

C：観測所主導といってもサイエンスは丸投げなのが気になっている。

C：グループ形成さえうまくできれば、逆に丸投げのほうがうまく行くのではないかと？

C：枠を作っておいて後は丸投げというのはやはりおかしい。

WG 委員：HiCIAO に関しては、装置チームと一緒にサイエンスを含めてコミットしていくつもりだが、すべてを独善的に進めるわけではない。

副所長：HiCIAO は PI 装置なので特殊であり、FMOS や HSC とは違う。

委員長：戦略枠の定義をはっきり明文化しておき、その原則を踏み外さないように、やっていく必要がある。WF MOS をやることになった場合も、戦略枠が武器になるはずだ。

C：完全な公募方式にしたとして、ユーザーから出てくる提案も結局は観測所が提示する案と同じかもしれないが、自分たちが言ったものとしてユーザーはやりたいのだろう。

C：先日の FMOS 提案は装置チームが遠慮しながら出しているのを、

今後内容は変わってくると思う。

C：戦略枠ができれば、HSC チームもそれに合わせたプランを出してくるはずだ。

C：観測所+SAC が主導していいと思うが、ユーザーが意見を出す場を設ける必要がある。

C：理想は 2-3 のチームが研究会を開いて、案を詰めていく方式だろう。

WG 委員：それは前回の WG 提案そのものだ。

C：戦略枠を新しい装置を使うとだけ決めるのなら、それで決まりで議論の必要はない。

それに対して大枠のサイエンスまで決めるとすると、議論の可能性はある。

C：「競争力のあるユニークな観測装置を使って大規模な観測を行う」のが戦略枠だが、新しい装置を作った人は皆自分たちの装置はユニークだと思っているはずだ。

C：100-200 晩を要求するサイエンスができるのかがポイントだろう。

C：GT との違いがわからない。

C：GT は装置チームが観測時間を自由に使えるものだ。

C：戦略枠では装置チームと競合するチームが出てくることもあるだろう。

C：装置を作ったら戦略枠というのでは、既存の装置が気の毒だ。

C：それを言うと、議論が進まない。

C：既存の装置で戦略枠をやってもいいだろう。

C：装置もサイエンスも限定しないで、という意見が自分の周りでは多かった。

C：そうするとタイミングが難しい。装置で決めれば、その装置が出来上がるタイミングに合わせられる。

C：使える夜数には限りがある。既存の装置でやりたければ、インテンシブ提案を数個出せばよい。

Q：今戦略枠を走らせるとしたら、何件実施できるのか？

WG 委員：HiCIAO, FMOC, HSC の 3 つが走ったとしても、観測最盛期が少しずつずれるので、多少の余地はある。

C：タイミングさえ決めてしまえば、すぐ実施できそうだ。

委員長：募集は年に一度か？

今までの装置でやりたいという人は多いのか？

C：MOIRCS ならすぐできるのではないか？

C：MOIRCS でやろうとすると、インテンシブでやってください、と言われてしまう。

C：HiCIAO, FMOS, HSC の他にも余裕があるのなら、別なものを通していい。

C：その時々で強力な装置があれば戦略枠をやる。新規装置とは限らない。

装置チームとは別個のグループを形成して実施する。

C: 戦略枠は UKIDSS のように誰が見ても成果が出せると思うものを実施する。

FMOS が立ち上がったら、誰もがまとまったサーベイをやるべきだと思うはずだ。

C: MOIRCS でそういう提案ができるのか？別の領域での観測提案ぐらいしか出てこないのではないかな？

C: それくらいしか出てこなかったら、蹴ればいい。

C: MOIRCS は今からではもう競合チームがたくさんある。

C: ユーザーの提案を受け付ける不都合は全くないと思うが？

C: WG 案がまさにそれだったはずだ。

WG 委員: 全く白紙からの公募をしてみてもいいかな？というのが UM でのユーザーの反応だった。

C: 公募とは違って、意見を聞く、というやり方もある。

委員長: 既存の装置を含めて、複数年で何百夜という提案を出してもらって審査してはどうか？装置ができて戦略枠導入を1年くらい待たなくてはいけない状況になるよりはとにかく始めたい。

C: サイエンスだけでなく、観測所の態勢など諸般の事情を考えて審査する必要がある。

C: それでも戦略枠にふさわしくないものを選ぶことはない。

C: 審査は誰もが納得するような提案を取るようになる。

C: 結局 HiCIAO が選ばれたら、なんだ、ということにならないかな？

C: 観測所主導にこだわる理由がよくわからない。観測所プロジェクトとあまり違わないことになる。観測所プロジェクトがうまく行ったとは思っていない。

WG 委員: すばるとして誰が見てもやる価値があることをまとめた時間を投入してやりたい。観測所主導という用語弊があるのではないかな？観測所の独善にならないようにはするつもりだ。

C: では公募やヒヤリングには全く問題ないのかな？

WG 委員: yes

委員長: ユーザーの意見を取り込む時期を一番最初にしようという方向になってきたようだ。第1回戦略枠の Call for Proposals をいつ出すかな？

C: 不定期の公募でもいいのでは？

C: 審査が難しい。いつも絶対評価になってしまう。

C: 随時だと装置が立ち上がったときに競合しなくても済むが、確かに枠がないと難しいかもしれない。

委員長: 普通の共同利用の間に公募するとすると年に2度になるかな？

あるいは年に1度か？

C：2回でもいいかもしれない。

C：HiCIAO 提案は通ると思うが、そのほかに通るかどうか？

WG 委員：残りは年間最大 30 夜、DDT を使えば最大 40 夜になる。

委員長：次の公募の前に1枚程度の戦略枠のアナウンスを出そう。

WG にまとめていただきたい。

WG 委員：審査をどうするかが問題だと思う。

枠が何もないと審査員も選べない。

最初の公募時点で、ターゲットも出すのか？

どの程度の深さのプロポーザルを要求するのか？

(所長登場)

WG 委員：白紙の公募をやるべきだ、という議論になっている。

委員長：第1回のときには既存の装置についてもアイデアがある人がいるかもしれないから、それを聞いてみる必要があるだろう、ということだ。

所長：そう言われればそうするしかないが、観測所の態勢を整えるのが難しい。

副所長：体制が組めないから断る場合もありうる。

WG 委員：審査のイメージを議論してもらいたい。

委員長：最初に公募を決めてしまってから審査方法を決めたい。でないと議論が戻ってしまう。

WG 委員：第1回だけ公募なのか？

委員長：早く動いたほうがいいので、最初は半年後に公募しよう。

最初に1-2個選んでから、もっと詳しい提案を出してもらおうのか、

最初から詳しい提案を出してもらおうのか？

C：数ページの簡単な提案を出してもらってから、戦略枠にふさわしいかどうかを検討し、観測所の態勢も考慮してはどうか？

委員長：予備審査は2件まで通すことにしてはどうか。

WG 委員：年間60夜可能というのは、共同利用の25%を超えない、という意味での計算だ。暗夜が60夜ではないことに注意が必要だ。暗夜が60夜の3分の1を超えたり、3分の1以下でもシーズンに偏りがあると、共同利用の暗夜課題のスケジューリングが(暗夜の)半分以下に限られてしまう。

C：戦略枠が共同利用の最大25%というのはいいのか？

(委員全員同意)

WG 委員：最初の提案グループは観測実行グループではない、という理解でいいのか？

委員長：本来の、広く日本コミュニティに参加を募るということがいい。

UM でこのやり方は危険だと言う人がいたが、確かにほとんどの人が
とりあえず参加だけしてしまうという危険性はあるだろう。

C：チームのコアメンバーが nature 論文を出せばいい。

C：とりあえず参加する人ばかりで、サイエンスが進まないのは困る。

委員長：WG に戦略枠のポリシーをまとめてもらうが、そこに盛り込むべき
内容は、

夜数制限、装置制限、観測時期の制限なし
年間最大 60 夜で、暗夜はその 30% 以下
(注：UH も共同利用も月相・シーズンに関してフラットな
割り付けを原則としているので、毎月の暗夜のうち 2-3 夜は
UH に割り付ける可能性が常にある)

委員長：最初の公募はいつ頃になるか？

C：共同利用の次の公募締切が 9 月半ばなので、7 月半ばくらいか。

委員長：最初に提出してもらう内容は、タイトル、装置、夜数で、
TAC+SAC の審査で最大 2 件までに絞り、通った提案のヒヤリングを実施する。

所長：審査委員会は SAC が丸ごと入るのではなく、別に設けたほうがいい。

委員長：審査委員会は SAC で選定する。

WG 委員：提案をレフェリーに個別に絶対評価してもらうのがいいと思うが、
以前インテンシブでその方法を採用して評判がよくなかった。

「これはインテンシブ・プログラムにふさわしい提案だと思うか？」と聞くと、
レフェリーが皆イエスと答えてしまう。

委員長：レフェリーは外国人も入れるのか？戦略枠に外国人応募可能とするのか、
という問題と関係してくるが。

C：とりあえず外国へは開かないで、日本のコミュニティでやりたい。

所長：プリンストン等との共同研究のことも念頭において計画してほしい。
プリンストンへの返事の仕方が違ってくる。

委員長：双方の戦略枠提案をマージする必要があるのだから、
まず我々の戦略枠を始める必要がある。

WG 委員：プリンストンとの共同を考えるのではなくて、まず日本のユーザーの戦略枠を考えるべきだ。

所長：それは当然だ。

WG 委員：審査のときにすばるの戦略枠としてすばらしい、という判断を誰がするのか？

C：予備審査は事情を知っている日本人のほうがいい。外国人が入ってくると混乱する。
scientific merit については外国人の判断があるといいが。

WG 委員：すばるの戦略枠なのだからなぜ SAC で決めていけないのか？

所長：SAC で決めていい気がしてきた。

委員長：戦略枠審査委員会を発足させるのかどうか？

WG 委員：提案を見てから選ぶと恣意的になる危険性がある。

委員長：ある程度年配の人たちにお願いしたい。

予備審査は SAC でやって、本審査は審査委員会にかける。審査委員会は
そのとき限りとする、ではどうか？

WG 委員：選んだ提案をどうやってプログラムに練り上げるか？

どう研究グループを組織するか？

C：最終審査の前に研究会をやってはどうか。

WG 委員：組織作りを含めて旅費をサポートするのは難しいのでは？
自助努力でやってもらうか？

C：予備審査を通ってるのだから、旅費を出せないか？

所長：観測所のサポート体制がどこまでできるか心配だ。

所内の態勢作りにはある程度時間がかかる。

予備審査を通すときに、観測所に来てもらって実行態勢を詰めた後でないと難しい。

C：プロポーザルに実行態勢についても言及してもらえばよい。

委員長：最初の1回目だけが予想外の提案があるのだと思う。

既存の装置も加えてはどうか？

WG で A4 1 枚程度の戦略枠についてのアナウンスを準備する。

3 UMでの大内・田村提案をどう扱うか？

委員長：コミュニティからこういう装置提案が出たのはすばるとして初めてのことだ。

SACとしてこれをどう扱うか議論したい。

所長：観測所には常時いろんな人からコンタクトがあり、それ対しては個々に誠意をもって対応している。

C：装置提案には誰が対応するのか？

C：予算を要求していくためのグループ作りが必要だが、観測所内の人を含む必要があるだろう。

C：観測所がその装置を作るべきだと判断したら、**Call for Proposals**を打てばいい。

C：大内提案はHSCはできるものだと考えて、WF MOS様の装置と近赤の広視野カメラを推奨していた。

C：WF MOSは実際には一緒に作ることになるだろう。向こうに丸投げしていいのか？

C：その装置がすばるにふさわしいかどうかをSACで検討して、実現の道筋を考えたい。

C：実現するためには、装置を実際に作る人、運用する人をこれから取り込んで行く必要があるだろう。

所長：HSCとWF MOSについてはすでに明快な案があるが、近赤広視野カメラにはない。

C：装置提案を出すまでがこのWGの役割だと考えている。そこから先はまた別の動きが必要になるだろう。UMのときに受け皿という表現をしたのは、大学レベルでの実現は難しいので、天文台内にスタッフレベルで一人人員を確保してほしい。そして台内の競争的資金等で予算獲得していくのが現実的だと思う。

所長：我こそはと言う人がいればいいが、そうでない人をアサインするのは難しい。

C：やはりまずやれるのはCallを出すことだろう。

C：キックオフのお金を出すから、後は科研費を取って進めてほしい、という形になるだろう。

C：装置志向のサイエンティストが重要な役割を果たすことになる。

何らメリットなしに働く人はいないから、若い人にしかるべきポストを準備する必要がある。

所長：日本は欧米と違ってこれまではそういうことができなかった。

これからはできるようになっていくと思う。

委員長：面分光装置は必要ないか？

C：今から5年かけて面分光をやっても、すでにSINFONIが動いている

委員長：近赤広視野カメラはどうか？

C：外国は他に遅れても必ずやり遂げる。だから成果が出せる。

日本のようにどこかがやってるからあきらめる、という姿勢では結局何もできない。
近赤広視野カメラがあれば将来のすばるの使い方も違ってくるはずだ。

委員長：装置を実現できるところまでもっていきたい。また次回取り上げる。

4 WFMOS について

委員長：Gemini に持ってきてもらうのか、自分たちで WFMOS 様の装置を作るのか？

C：後者は無理だろう。

C：WFMOS 計画が頓挫したらどうするのか？

所長：その可能性は高いかもしれないので、だから赤外広視野カメラは考えておいたほうがいい。

C：前所長の時の話では、すばる側の負担は HSC 製作と主焦点の改造だけだったはずだが、先日の Gemini 所長の Simons 氏の話だと、WFMOS の製作資金を一部負担してほしい、というニュアンスだった。

所長：それが彼の真意だが、それは無理だと伝えてある。Gemini から提案された最初の案は、Gemini 側が WFMOS を作って持ってくるので、すばるで 300 夜使いたいというものだった。ただし、その 300 夜は日本のコミュニティにもオープンするので、半分の 150 夜を Gemini が日本に提供するという内容だった。しかし、この案は Gemini 側からの一方的装置供与に当たるので、唐牛前所長が HSC を日本側で準備することにして、対等な関係にしようとした。金額的にも、主焦点改造を日本側が持つなら、WFMOS と比較し得る 45 億円程度の費用となるので、対等な関係になる。その結果、すばると Gemini の共同提案として「白書」が作られた。

委員長：少数の日本人が参加するだけでこのまま進むのか、それとも皆が参加するのか？

所長：日本のユーザーに不利にならないように、交渉を始めないといけない。

委員長：そろそろ WFMOS について明確に論じるべきだ。

すばるの次期装置として受け入れるのかどうか。

だがすばるを使う代わりに Gemini を使うというのは問題外だ。

C：Gemini がどうなるかを見極めるべきだ。Simons は Gemini は危機に瀕していると言っていた。

所長：Gemini の望遠鏡時間は要らないのなら、要らないとはっきり言う必要がある。

委員長：300夜が終わったら WFMOS は日本の装置になるので、共同利用に使われることになる。

所長：補償夜数が 150 夜、300 夜、600 夜のどれなのかよくわからない。

いずれにもそれなりの理屈がある。

委員長：1 対 1 の交換ではだめだ。

C：WFMOS があることによってすばるの価値が上がるのだから、even でいい。

C：合意書に WFMOS はすばるに引き渡す、と書いてもらえばよい。

所長：すばるに載せるという約束が成立してから WFMOS の製作が始まるが、

その際には management plan が必要だと Gemini から言われている。

委員長：Gemini が頓挫してもすばるがやる、と言うべきだ。

絶対我々には必要な装置だ。

所長：SAC 委員長に 2 ヶ月に 1 度くらいハワイに来て、交渉に参加してもらいたい。

所長：letter of intent を出す必要がある。

C：WFMOS と近赤広視野カメラとどちらを優先させるのか？

C：大内グループは WFMOS を第 1 優先にしているわけではない。

UM 発表の表には、すばるとしてのサイエンスメリットは考慮されてないので注意が必要だ。

C：それぞれユーザーの人数も違う。

C：大内さんの、「必要な装置は以下の 3 つ」というのは優先度順ではない。

所長：WFMOS ができるのは早くて 2014 年だ。HSC は 2011 年に観測開始の予定だが、今後の進捗次第だ。FMOS の状況を考えても、共同利用開始は 2013 年くらいになるのではないか？いずれも長期計画だ。

委員長：我々に時間がいっぱいあるということでもある。

WFMOS は 10 年後でも生き残っているだろう。

所長：向こうが WFMOS を作ってくれるならありがたい。条件について

そろそろ詰めなければいけない。

委員長：日本側の出方がわからないので、Gemini が困っている、と聞いたことがある。

5 Gemini/Keck との時間交換について

委員長：Gemini/Keck との時間交換については、観測所の裁量で進めて構わない。

交渉担当者：今期(S07B)の Keck との交渉は時間が足りなかったこともあり、結果的に必ずしも満足できない。OSIRIS が出せないといわれた。理由はパイプラインができていないので Keck の評判に関わるからとのことだった。LGSAO も断られた。すばるとしては MOIRCS を出さないという解もあり、Keck 側も Suprime-Cam と DEIMOS の 1 対 1 でもよいとのことだったが、色々な装置を使いたいというユーザーの要望があったので、結局すばるからは Suprime-Cam と MOIRCS、Keck からは DEIMOS、ESI、LRIS、NIRSPEC の 4 装置で時間交換することにした。

来期は OSIRIS は必ず出るが、LGSAO についても交渉したい。

LGSAO は年間 40 夜しかできないしコストもかかるのでと先方は言っている。

来期 LGSAO を出さないといわれたら、縮小するつもりだ。

委員長：4 月くらいから既存の装置のコミッションも視野に入れて、時間交換について検討を進める。

6 国際協力について

所長：プリンストンについてはドラフトの台長レターを送ったそうだ。

委員長：それは台長が責任を持って取り仕切る、という意思表示なのか？

所長：基本的にそうだと思う。SAC も積極的に関わってほしい。

C：プリンストン大との協力について先日 HSC チームの宮崎さんが向こうに行って話し合い、5 月くらいに須藤さん他数名が向こうに行って相談することになった。どこかで情報を共有する必要があるだろう。

委員長：一部の人が突っ走っている面がある。一部の人が話を進めているのに、向こうは日本の代表を相手に交渉していると思ってしまう状況になりかねない。

SAC で関係者に状況報告してもらって、内容をコミュニティに公表したい。

C：すばるコミュニティ全体の意見が反映されないのではないかと危惧している

所長：もう少し official な形にしていく必要がある。

C：そのためにも戦略枠を早く決めたい。

委員長：プリンストン提案にユーザーが賛成したのは、自分たちも一緒にできると思ったからだろう。そのように進めなければだめだ。

委員長：台湾については何か動きがあるのか？

所長：すばる望遠鏡を使用して日本との共同研究を進めたいと考えており、
HSC の開発で貢献できないかを検討中である。そのために、台湾政府から
予算を獲得しようとしている。
Letter of Intent の交渉に 3 月 7 日に行く予定だ。

Q：望遠鏡時間を買いたいという提案なのか？

所長：HSC の開発については、研究者がハワイに来て共同研究したいという
提案だが、一般的には台湾の研究者にすばるへのアクセスの道を開きたい
というのが台湾側の考えである。

7 次回委員会

3 月 22 日(木) 於 南研輪講室